

マニアの話

北部檜山医師会
道南ロイヤル病院

鈴木孝治

早いもので平成26年5月道南に来てから、3年が経ちました。単身赴任という形の生活の中で、今まで知らなかった世界が広がり、ここまで大変有意義に過ごして来られたと思います。

私は鉄道マニア分類の中では、車両鉄、設備鉄と呼ばれる一群に属してきたつもりで、床下機器一般、信号システムなどを専門としていますが、帰省のため神奈川県と往復する中で、航空機、船舶にも視野を広げることができました。

最初に道南に来るに当たって利用したのは、大洗～苫小牧間フェリーです。大型船舶は青函連絡船以来かと。大洗に車で着いて、まず驚愕。船体の右側で接岸しているのではないですか。左舷で接岸する決まりになっているとばかり思っていたら、右側接岸や両側接岸も今や普通らしいですね。ちなみに空港では機体左側にボーディングブリッジが着いて乗降しますが、あれは航海時代における船の慣習の延長だそうです。

出航時の挙動にも驚かされました。船首と船尾底部に船体横方向のトンネルがあり、内部のスクリュウを使って真横にかなりの速度で移動するのです。サイドスラスタという仕組みは船内に説明があつて、青函連絡船時代にも既に多くの船舶に装備されていたようですが、運動性能は今や段違いで、斜め前方への平行移動で一気に離岸したのには感動すら覚えました。

苫小牧での接岸も圧巻です。湾内に入って一旦停止、船首と船尾のスラスタを逆方向に推進することで90度回転、そのまま斜め後方に平行移動し到着。テレビ番組で船舶の接岸を観察する趣味人：接岸マニアなる人たちがいることを知りましたが、さまざまな条件での接岸を観察できる機会があれば、これは実に面白い対象だと思います。

乗ったのはそれでも旧式船に属するようで、最新のフェリーは二重反転スクリュウという推進機構があり、最高50km近い速度が出るそうです。今年の5月から8月に大洗～苫小牧航路は新型船に置き換わるので、近々乗ってみなければと思っています。

車で移動しなければならぬとき以外は基本的に空路ですが、大型機と言えば747ジャンボというのが北海道に来る前の自分の中の常識で、実に10数年ぶりのジェット機搭乗、またしても驚きです。今の

機体は大型機でもエンジン2基の双発機なんですね。双発で500人乗りの777トリプルセブン、騒音の小ささには半ば呆れてしまいました。何より双発機は四発機より燃費が良いそうです。技術の進歩は凄まじいものがあります。

離着陸には大いに興味を持ちました。新千歳は2本の滑走路、羽田には4本の滑走路があります。どの滑走路から飛んでどこに降りるか。何回か利用してみても、新千歳は離陸がターミナルビル側のA滑走路、着陸は奥側B滑走路が基本と分かりました。羽田はというと、いつも第2ターミナルビル前のC滑走路で離着陸しているようでした。でも夏の暑い日、追設されたD滑走路に着陸したことがあったのです。D滑走路からターミナルビルは遠いので、着陸から降機まで時間がかかり、どうやって滑走路を決定するのか疑問多々。また時々離着陸方向が替わるのにも気付き、ますます疑問噴出。

その後いろいろ調べて分かったのは、航空機は離着陸時に失速しないよう、追い風にならない方向を選択する必要があるという点です。

新千歳は滑走路が南北方向なので、北風の強い冬は北向きに離着陸、夏は南向きに離着陸するのが基本。羽田から来て北向き着陸だと苫小牧上空から一直線に進入、南向きでは鷗川辺りから日高地方へ上陸し、由仁町周辺上空で左旋回しながらUターン、千歳市街地を避けるように進入します。道内上空に差し掛かって左旋回が続くときは、南向きで間違いないでしょう。ちなみに新千歳はターミナルビルが滑走路北寄りにあり、南向き運用だと離陸便を早く処理できるためか、冬でも無風の日に南向きだったこともあるので、道内に入るまでは気が抜けません。

羽田はAとCはほぼ南北、BとDは北東～南西方向です。北海道便においては、北風時C滑走路北向き離着陸、南風時C滑走路南向き離陸、D滑走路南西向き着陸が基本。ターミナルビルから遠いD滑走路利用を最小限にするためか、夏でも無風時には北風時運用になっている事が多いようで、D着陸に当たれば貴重だと思います、ゲート到着まで時間がかかりますが。冬に羽田出発時は冬運用北向き、新千歳に降りたら夏仕様南向きだったりするとニンマリしますね。例えばこんなことに注目すると、1時間半の搭乗も退屈が紛れてワクワクできるでしょう。

何事にもマニアはいるのです、人間は好奇心旺盛な生き物だから。毎日見聞きする何気ないことにふと疑問が湧いたりしたら、そこからマニア道の始まりです。首都圏で計画停電があつた際には、送電線・鉄塔マニアの存在を知りました。およそ趣味対象になりそうにない物について、世界で初めてのマニアになるとしたら、なかなか誇らしいことではありませんか！